

Project E01	地域教育専攻 異文化コミュニケーション体験と国際理解教育			
メンバー	<p>地域プロジェクトⅢ 1407 茶木 優奈, 1413 山下 涼風, 1418 川村 真生, 1423 丹野 真帆, 1424 佐藤 憧佳, 1439 熊谷 球人, 1441 梅田 沙莉, 1444 田代 桂大, 1445 板垣 聡一郎</p> <p>地域プロジェクトⅣ 0401 和田 万葉, 0418 鷹崎 浩太郎, 0424 佐々木 果音, 0426 武田 佳乃, 0429 伊東 莉々香, 0431 菅原 涼成, 0432 葛西 大, 0437 工藤 未来, 0442 仲村 健太郎, 0443 道券 惣士, 1444 田代 桂大</p>	<p>[学生]</p> <p>[担当教員] ◎石森 広美 先生 ・ 石井 洋 先生</p>		
<p>【背景】</p> <p>国際理解及び異文化理解, 多文化共生, 海外への関心意欲が高い学生が, 海外の教育事情や現地の生活や文化について学ぶため, 実際の海外というフィールドで教育現場を見学し, 関係者との交流学习を行うことで, 学びを深めようと始動した地域教育専攻の新規プロジェクトである。</p> <p>【目的】</p> <p>海外における教育体験を通じて, 教育の多様性を理解し, 日本の教育を省察するとともに, 今日のグローバル社会における多文化共生の重要性と異文化コミュニケーション能力の必要性を理解すること。また, 将来, 国際理解教育を実践できる資質・能力を身につけること。</p> <p>【概要】</p> <p>海外の小中学校・大学(教員養成大学等)において, 現地の教育現場を見学・観察し, 教員や児童生徒・学生との交流を通して, グローバル社会, そして多文化共生社会の構成員としての成長を促す教育を学ぶ。</p>				
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【プロセスと成果】</p> <p>シンガポール</p>  <p>○事前指導を通して →高学力を保つシンガポールの教育事情やシステムに加え, 社会や文化について理解を深め, 現状や課題を把握することができた。 →現地の児童生徒との交流に向けて, 日本文化を振り返ったことで, 母国である日本を見つめ直すきっかけになった。</p> <p>○体験活動を通して →実際の多文化・多民族の学校や児童生徒の様子を見ることができた。 →現地の教職員の方々との交流から, 学校現場での子どもたちへの具体的な異文化理解の促進方法を知ることができた。 →将来教員として, 国際理解教育を実践する際に活用できる資料や教材を集めることができた。 →帰国後, 学生の実習校を含む道南地域の小学校において, 海外体験で学んだことを活かした授業実践を行うことができた。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>カンボジア</p>  <p>○事前指導, 体験活動を通して →世界の教育事情を他人事ではなく, 自分事として知ることができた。 →カンボジアと日本の教育を比較し, 日本の教育の良い点(学習形態, 学習活動の活用等)にも目を向け, 物事を批判的に, かつ肯定的に捉えられるようになった。 →現地の子どもたちと交流し, 日本の文化(折り紙等)を体験させることができた。 →将来教員として, 国際理解教育を実践する際に活用できる資料や教材を集めることができた。</p> <p>○教員養成大学での観察, 学生との交流を通して →将来教員として, 自身の見聞きしたことを伝え, 子どもたちの世界を広げられる思考や視野が格段に広がった。 →将来教員として, 世界で協力し, コミュニケーションをとることができる仲間を増やすことができた。</p> </td> </tr> </table>			<p>【プロセスと成果】</p> <p>シンガポール</p>  <p>○事前指導を通して →高学力を保つシンガポールの教育事情やシステムに加え, 社会や文化について理解を深め, 現状や課題を把握することができた。 →現地の児童生徒との交流に向けて, 日本文化を振り返ったことで, 母国である日本を見つめ直すきっかけになった。</p> <p>○体験活動を通して →実際の多文化・多民族の学校や児童生徒の様子を見ることができた。 →現地の教職員の方々との交流から, 学校現場での子どもたちへの具体的な異文化理解の促進方法を知ることができた。 →将来教員として, 国際理解教育を実践する際に活用できる資料や教材を集めることができた。 →帰国後, 学生の実習校を含む道南地域の小学校において, 海外体験で学んだことを活かした授業実践を行うことができた。</p>	<p>カンボジア</p>  <p>○事前指導, 体験活動を通して →世界の教育事情を他人事ではなく, 自分事として知ることができた。 →カンボジアと日本の教育を比較し, 日本の教育の良い点(学習形態, 学習活動の活用等)にも目を向け, 物事を批判的に, かつ肯定的に捉えられるようになった。 →現地の子どもたちと交流し, 日本の文化(折り紙等)を体験させることができた。 →将来教員として, 国際理解教育を実践する際に活用できる資料や教材を集めることができた。</p> <p>○教員養成大学での観察, 学生との交流を通して →将来教員として, 自身の見聞きしたことを伝え, 子どもたちの世界を広げられる思考や視野が格段に広がった。 →将来教員として, 世界で協力し, コミュニケーションをとることができる仲間を増やすことができた。</p>
<p>【プロセスと成果】</p> <p>シンガポール</p>  <p>○事前指導を通して →高学力を保つシンガポールの教育事情やシステムに加え, 社会や文化について理解を深め, 現状や課題を把握することができた。 →現地の児童生徒との交流に向けて, 日本文化を振り返ったことで, 母国である日本を見つめ直すきっかけになった。</p> <p>○体験活動を通して →実際の多文化・多民族の学校や児童生徒の様子を見ることができた。 →現地の教職員の方々との交流から, 学校現場での子どもたちへの具体的な異文化理解の促進方法を知ることができた。 →将来教員として, 国際理解教育を実践する際に活用できる資料や教材を集めることができた。 →帰国後, 学生の実習校を含む道南地域の小学校において, 海外体験で学んだことを活かした授業実践を行うことができた。</p>	<p>カンボジア</p>  <p>○事前指導, 体験活動を通して →世界の教育事情を他人事ではなく, 自分事として知ることができた。 →カンボジアと日本の教育を比較し, 日本の教育の良い点(学習形態, 学習活動の活用等)にも目を向け, 物事を批判的に, かつ肯定的に捉えられるようになった。 →現地の子どもたちと交流し, 日本の文化(折り紙等)を体験させることができた。 →将来教員として, 国際理解教育を実践する際に活用できる資料や教材を集めることができた。</p> <p>○教員養成大学での観察, 学生との交流を通して →将来教員として, 自身の見聞きしたことを伝え, 子どもたちの世界を広げられる思考や視野が格段に広がった。 →将来教員として, 世界で協力し, コミュニケーションをとることができる仲間を増やすことができた。</p>			



【シンガポールの小学校での異文化交流】



【カンボジアの小学校での異文化交流】

【総括・今後の課題】

○成果・総括

- ・コミュニケーションをとる際には、日本人同士でもそうではなくても、自分が相手のことを理解しようとする姿勢に加えて、自分のこともよく理解し、それを相手に伝えようとする姿勢も必要である(自己理解・他者理解)。
- ・子どもたちや教育に対する教師の思いや願いは、世界で共通している。教師を目指す者あるいは一教師として、国を越えて互いに学び合おうとする気持ちや姿勢が大切である。
- ・学生として、また、将来は教員として、今回得た学びを日本の教育に還元するためにはどうすべきかを常に考え続ける意識が不可欠である。
- ・現地の学生や教職員との交流を通して、日本では得られない異文化理解を深めたことで、体験的な学習から得られる本当の価値を学んだ。

○課題

- ・多様な訛りのある英語への学生の対応力が低かった。特にカンボジアの公用語がクメール語であり、その影響は大きかった。
- ・学生の英語力が低く(個人差有)、自信の無さから教員や通訳(日本語—クメール語)に頼ってしまったり、積極的に発言したりできない場面が多かった。
- ・日本の教育事情について、学生の理解度が低く、知識も少ないことから、現地の教職員に十分な説明ができなかった。母国(日本国)に対する知識が不足しており、海外で日本のことを発信できるよう自国のことについてもしっかり学習する必要性を感じた。

【地域からの評価】

★シンガポールとカンボジアの先生方からの評価★

- ・革新し続けるシンガポールの教育を日本の教員志望の学生と共有できたことは意義深い(シンガポール、中学校校長より)
- ・教員を目指す学生同士が交流し、学び合うこのような機会は大変貴重である。今後もこのような交流を継続していきたい(カンボジア・大学教員より)

★ポスター発表に参加した方々からの評価★

- ・海外での授業観察や児童生徒との関わりから、日本の文化や教育を振り返ることができると知り、異文化理解や多文化共生という視点は教育現場においても大切であると感じた。私も海外の教育について関心を持つことができた。
- ・こういう海外の学校に行く授業があれば、自分も参加したい。とても貴重な機会だと思う。
- ・内容も発表の仕方も素晴らしい。両国の活動はどちらもプロセスと成果が明確で分かりやすかった。
- ・国際理解において自国を理解することも大切だと学んだ。国が違っても教育に対する思いは同じだと知り、国家間での情報共有の重要性がわかった。

【その他】スケジュール

■シンガポール

- 事前指導 4～8月
- ・シンガポールの社会や教育事情理解 等
- 体験活動 8月5～10日(4泊6日)
- ・シンガポールの教育事情を含む現地理解
- ・小・中学校の授業観察、児童生徒との異文化交流
- ・シンガポール国立大学生との交流、大学見学
- ・教職員とのディスカッション

事後指導 10～2月

- ・道南地域の小学校での国際理解授業実践 等

■カンボジア

- 事前指導 10～11月
- ・カンボジアの社会や教育事情理解 等
- 体験活動 11月20～26日(5泊7日)
- ・カンボジアの教育事情を含む現地理解
- ・小・中学校の授業観察、児童生徒との異文化交流
- ・バタンバン教育大学での授業見学、交流活動
- ・教職員とのディスカッション

事後指導 12月～2月

- ・国際理解教育学会での指導案発表 等